

経営学研究科【教育課程の編成・実施方針】

経営学研究科では、「人間としての人格陶冶」を人材養成の目的とすると同時に、「学術の殿堂、すなわち、知の集積拠点としてその役割を高めていくこと」を基本目的とし、以下に示す教育課程を編成し、実施している。

〔博士前期(修士)課程〕

本研究科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標、すなわちグローバル化・情報化・学際化の流れの中で、高度の専門職職業人の養成、国際的人材の育成、さらに専門的研究者の養成を図ることを目的として、理論と実践を柱とした総合的な教育課程を編成する。

教育課程は、特殊講義と演習(研究指導)、並びに留学生向けのその他の科目で構成される。特殊講義には、経営学及び隣接諸科学の専門知識を深く広く修得し、企業及び様々な組織における諸現象・諸問題を分析し、洞察する能力を持った人材を育成するために、経営学の全領域にわたる科目を置く。

具体的には、「企業経営」、「会計・ファイナンス」、「経営情報」、「国際経営」の4分野を設置し、企業研究、経営管理研究、会計学研究、経営財務研究、経営情報研究、国際経営研究などの科目を置く。

演習には、論文指導演習Ⅰ～Ⅳを置き、修士論文の作成に向けた研究指導に加え、修士論文プロポーザル、及び修士論文報告会において、研究科構成教員による講評・指導を受ける機会を設ける。

これらの科目を履修し、指導教員の演習8単位を含め、合計32単位以上修得することを修了要件とする。

なお経営学研究科では、学生が自らの学問的関心や進路に合わせて履修を進められるようにカリキュラムフローを用意し、授業科目の体系的な流れを示している。

〔博士後期課程〕

本研究科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標、すなわち知の集積拠点としてその役割を高めていくことに教育目標を絞り、専門的研究者の養成を目的として、コースワークとリサーチワークからなる教育課程を編成する。

コースワークは、必修科目である経営学特殊講義で構成される。グローバル化や科学技術の進展に伴う社会の変化に対応できる人材の養成を行うために、分野横断的に知識を修得させ、能力を高めるとともに、経営学に関する多様な先端的研究の知見を教授することによって、広い視野と理

解を有する研究者を育成することを目標とする。

リサーチワークは、「企業経営」、「会計・ファイナンス」、「経営情報」、「国際経営」の4分野にわたる特殊研究から構成される。経営学の専門的知識、思考方法、問題解決方法を修得し、学術研究・教育者あるいは高度専門実務者となる人材を育成する。そのため、入学時より指導教員の研究指導のもと、計画的に研究が進められるよう3か月ごとに研究の進捗度合いを評価する。さらに、毎年行われる博士論文の中間報告、並びに最終学年における予備審査を通じて、よりレベルの高い研究を進め、3か年で博士号を取得できるように支援している。

これらの科目を履修し、講義科目4単位及び指導教員の特殊研究12単位以上を含め、合計16単位以上修得することを修了要件とする。